わかやまNIEだより

Newspaper in Education 第17号 2017.2 和歌山NIE推進協議会

事務局:〒646-8660 和歌山県田辺市秋津町100 紀伊民報社内 TEL.0739-24-7171 FAX.0739-25-3094 E-MAIL:nie@kiiminpo.jp

新聞を読むことから始まる豊かな学びの世界

― NIEの教育的可能性 ―

和歌山NIE推進協議会会長
和歌山大学教育学部附属小学校長／教授
船越 勝

私の一日は、毎朝、新聞を読むことから始まります。忙しい仕事のなか、早朝の午前4時や5時は、家族の誰も起きていないので、誰に遠慮することなく、自由に時間を使うことができます。バイクの音がして、新聞受けにガタ、ゴトと新聞が落ちる音がすると、新聞を取りに玄関まで降りていくこともあります。そして、コーヒーを飲みながら、あるいは、通勤電車のなかで、私と新聞の対話の時間が始まるのです。これは、私が子どもの頃から変わらぬ生活習慣です。

「第7回 いっしょに読もう! 新聞コンクール」の受賞者に賞状を渡す船越会長

こうした40年以上の新聞との変わらぬつきあいのなかで、私は新聞を読むことには次のような豊かな教育的可能性があると考えています。

第一は、ことばの力と言語センスが身に付くということです。ことばの力や計画的に習得しにくいと言われる言語センスを身に付けていくためには、何よりも正しい日本語とそれによる美しい文章をたくさん読むことが大切です。「まねぶ」ことによって「学ぶ」ということです。「学ぶ」は「まねぶ」と同源であり、「真似る」とも同じ起源だといわれます。新聞は、毎日発行されるので、毎日多くの正しい日本語による文章を読むことができ、それを真似ることによりことばの力や言語センスを磨いていくのに適しているのです。

第二は、考える力が身に付くということです。新聞が記事として切り取ってきた生活現実には、様々な問題が含まれており、だからこそその問題をどのように解決していくのか読みながら考えざるを得ないわけであり、そのことがさらに表現の力を育んでいくのです。

第三は、当事者としての判断や価値観・態度の形成につながっていくことです。新に18歳選挙権が実現され、主権者教育の重要性が指摘されていますが、新聞を読むことは主権者としての判断力や価値観・態度を生活現実に即して形成していくことになるのです。

このような新聞を読むことから出発し、それを教材として活用したり、新聞づくりなどの文化創造に転化させる教育装置であり、「教育的しかけ」をNIEと言ってきたのです。

今年度も和歌山県でNIEの様々な取り組みが豊かに展開されることを願っています。

平成28年8月4日・5日

NIE全国大会大分大会に参加して

和歌山NIE推進協議会 副会長・NIEアドバイザー 赤阪 健司

「新聞でわくわく、社会と向き合うＮＩＥ」を大会スローガンに、第21回ＮＩＥ全国大会大分大会が、８月４日・５日の二日間、大分市のホルトホール大分で開催され、研究・討議が熱心に行われた。

開会式では日本新聞協会の白石興二郎会長が「ＮＩＥは学校での学びと社会をつなぐ、窓の役割を果たしてきた。子どもたちが社会と主体的に向き合う機会作りが重要」とあいさつをした。

記念講演は、大分県佐伯市出身の芥川賞作家で立教大学文学部教授の小野正嗣氏が「言葉に触れる、言葉で触れる」と題し記念講演。新聞が好きだった祖母や兄、フランス留学中の恩師らのエピソードを紹介しながら「新聞は世界最大のアクセスポイント」、「新聞は現実そのものを包括する存在」など、視野を広げる新聞の役割の重要性を強調した。

大分大会実行委員長の堀泰樹・大分大学教育学部教授が、「社会と向き合うＮＩＥに向けて」をテーマに基調提案、ＮＩＥは全教科、全学年で取り組むことができる。学校全体で組織的に進めるための体制の整備や、ＮＩＥのカリキュラム化、小中高の連携、学校図書館の機能充実の必要性、主権者教育推進のため、社会の動きや課題を多角的・多面的に考察し、公正に判断する力を身に着ける、新聞を活用した教材開発も課題になると呼びかけた。

パネルディスカッションでは、県内を中心に全国から１、４００人の教育関係者などを前に、「楽しくなければＮＩＥじゃない！～私たちはなぜ新聞活用に取り組むのか、その意義と実践のコツ～」をテーマに、ＮＩＥに取り組む教員や、授業を受けた中学生も出演し、記事を通じて多様な意見を認め合う良さや、ＮＩＥが学力にもたらす効果などについて活発な討論や意見交換を行った。

和歌山ＮＩＥ研究会では、皆さんの「ＮＩＥの取り組み」を支援しています。実践校の取り組みや研究会、全国大会の参加など、多岐にわたり支援体制を整えています。新聞と教育が互いに重要な意味を持つことが認識されてきた今日、①ＮＩＥが21世紀型学力を育てるためのとても有効であること、②選挙権年齢が18歳に引き下げられ、今まで以上に主権者教育が求められていることに鑑み、これからの学校教育でＮＩＥの活用の場が広がり、その成果が待たれるところです。

是非、多くの先生方に児童・生徒の「学力・人間性の向上」の有効な方法であるＮＩＥに取り組んでいただきたく、お願いする次第であります。

教育に新聞を

NIE
ホームページのご活用を

～新聞活用実践例を紹介したサイトです～

アドレス=http://nie.jp

NIEでいきいき

中学校・高等学校の双方における新聞学習

県立田辺高等学校　教諭　東　美佳

NIE推進校2年目に入り、本校では大きく二つの取り組みを行った。まず一つ目は、図書館との連携により、新聞が図書館で借りられるということを生徒だけでなく、教員側にも告知し、積極的に生徒の興味・関心事項に新聞を利用してもらうようにした。特に今年はTPPやアメリカ大統領選等、大きな関心を集める話題が多かったこともあり、生徒は新聞を各紙見比べることが出来たようである。また担当者が1年生の担任であるので、担当教室にNIEからの新聞を分類して整理し、誰でも自由に閲覧できるようにした。これにより、自宅で購読している新聞以外の記事に初めて触れたという生徒も少なからず存在していることがわかった。

日新図書館（同日付の新聞を各紙比較することが出来る。英字新聞も閲覧することが可能）

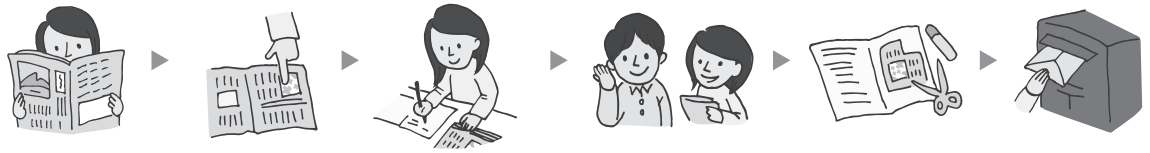
二つ目には、このように新聞に触れる機会を周知したうえで、中学校1年生・中学校2年生、高等学校1年生に今年の夏季休暇中の課題として、「第7回いっしょに読もう！新聞コンクール」への公募を行った。本校では、以前から新聞記事を二紙以上、スクラップし、自らの意見を述べるという課題を出していた為、二人以上と意見を交わすことが必須で、従来の課題発見のみならず、新しい視点への気づきをもたらすことから今回、コンクールへの募集を決めた。本校で集計した結果、476点の作品が集まり、県コンクールで優秀賞16点、奨励賞30点の入賞をさせて頂くことが出来た。

また本校では総合学習の時間にて、地域の現状について調べ、実際にフィールドワークで調査する地域研究を行っている。総合学習の一環として紀伊民報の石井局長をお招きし、取材の心構えや、情報を得ること、分析することの重要性をお話し頂いた。このような取り組みが高等学校で行われることも踏まえて、中学生のうちから、新聞を身近に感じるような声かけ、そして目標のある取り組みが継続することで、自ら情報を収集・分析し、課題発見、解決への道筋を見つけてくれることを期待したい。

第8回 いっしょに読もう！ 新聞コンクール

日本新聞協会は、今年も「いっしょに読もう！新聞コンクール」を実施します。
家族や友人といっしょに記事を読み、感想・意見などを書いて、記事とともに応募いただく新聞感想文コンクールです。

1 新聞を読もう ▶ 2 記事を決めよう ▶ 3 記事を読んで考えたことを書こう ▶ 4 家族や友だちに意見を聞こう ▶ 5 まとめよう ▶ 6 応募しよう



●対　　象：小・中・高校・高等専門学校生　　**●応募締め切り：2017年9月8日（金）必着**
●募集要項：2016年9月9日～2017年9月7日の新聞から興味を持った記事を切り抜き、
家族や友だちにも見せて意見を聞いたり話し合ったりしたうえで、応募用紙に記入して記事といっしょに送ってください。

主　　催：一般社団法人日本新聞協会　　コンクールの詳細（応募・問い合わせ先、対象紙一覧 など）▶NIEウェブサイト　http://nie.jp

第7回「いっしょに読もう！ 新聞コンクール」全国審査および県審査の結果発表

全国優秀賞に佐伯芽依さん、全国奨励賞に松本莉穂さん、田上文菜さん 優秀学校賞に和歌山市立四箇郷北小学校

日本新聞協会は、このほど第7回「いっしょに読もう！新聞コンクール」の受賞者を発表した。優秀賞に県内から和歌山市立高松小学校3年の佐伯芽依さん、奨励賞に和歌山大学教育学部附属小学校1年の松本莉穂さんと和歌山市立野崎西小学校6年の田上文菜さん、が選ばれた。優秀学校賞には和歌山市立四箇郷北小学校（2年連続受賞）が、学校奨励賞に県立日高高等学校附属中学校（2年連続）、県立田辺中学校と県立田辺高等学校が選ばれた。

同コンクールは小、中、高校生が新聞を読んで友だちや親から意見を聞き、感想文をまとめるというユニークな取組で、今年は全国から45、366編、県内から810編の応募があった。

佐伯さんが取り上げた記事は、毎日小学生新聞（5月29日）の「アメリカ大統領 初の被爆地訪問」。松本さんは、読売新聞（8月4日）の「服でたどる子どもの存在感」という記事を、田上さんは朝日新聞（1月5日）「東京五輪へ ケヤキよ響け 太鼓となって」を選んで感想を書いた。

全国コンクールと同時に県コンクールの審査結果が県NIE推進協議会から発表になった。

県優秀賞には、小学校の部で、佐伯芽依（和歌山市立高松小3年）、松本莉穂（和歌山大学附属小1年）、山原裕大（同小5年）、田上文菜（和歌山市立野崎西小6年）、増野音和（同市立四箇郷北小6年）、三浦文美（同小6年）が選ばれた。

中学校の部では、谷口琴音（県立田辺中1年）、藤川栞名（同中1年）、藤川瞭河（同中2年）、小澤萌恵（県立日高高等学校附属中2年）、小谷紫音（同中3年）、原幸日（同中3年）が選ばれた。

高等学校の部では、濱口柚香（県立田辺高等学校1年）、日下奈優（同高1年）、中井達哉（同高1年）、坂上舞香（同高1年）が選ばれた。

第8回「いっしょに読もう！新聞コンクール」はすでに募集が始まっている。

応募の詳細については、NIEホームページ（http://nie.jp）に掲載されている。

佐伯芽依さん

松本莉穂さん

田上文菜さん

※写真掲載は保護者の了解を得ています